

★出穂期は 4 月 20 日植えて 2~3 日早く、5 月 1 日植え では平年並。7 月下旬の低温で成熟期が遅れる可能性。

1 君津地域の生育概況

4 月 20 日植えの出穂期は 2~3 日早く、5 月 1 日植えて平年並となっています。7 月下旬の低温で成熟期が遅れる可能性がありますので、帯緑色籾（裏面参照）を見て刈り取りを適期に行いましょう。

2 県作柄調査ほ等の調査結果

品種	年	田植え日	出穂期	成熟期予測
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	28	4/17	7/9	8/11
	平年	4/16	7/11	-
	平年比	+1	-2	-
ふさこがね (君津市)	28	4/18	7/10	8/16
	平年	4/19	7/14	-
	平年比	-1	-4	-
コシヒカリ (君津市)	28	4/20	7/15	8/22
	平年	4/20	7/18	-
	平年比	±0	-3	-
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	28	4/25	7/18	8/25
	平年	4/21	7/18	-
	平年比	+4	±0	-
コシヒカリ (木更津市)	28	5/1	7/23	8/30
	昨年	5/8	7/27	-
コシヒカリ (君津市)	28	5/1	7/24	8/31

※ 「出穂期」とは、ほ場の 40~50%の穂が「出穂」したとき、「出穂」とは穂先が茎から少しでも顔を出したときです。

※ 「成熟期予測」は、平年並みの天候の場合の収穫期の目安であり、出穂期から「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。

※ 平年値は過去 10 年（2006~2015 年）平均値。ただし、①富津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は過去 9 年（2007~2015 年）平均値、②木更津市のほ場は 26 年から調査を始め、君津市の 5/1 植えコシヒカリのほ場は 28 年から調査を始めたため、平年値はなし。

-農業事務所より郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 青木 y.aok31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

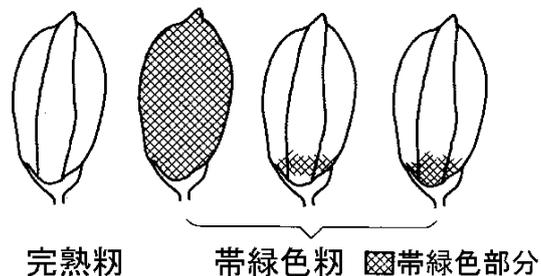
3 これからの管理のポイント

① いもち病の防除

7月下旬の低温・日照不足の影響で一部の遅植えほ場や葉色の濃いほ場で穂いもちが発生しています。感染拡大が止まらない場合は、使用時期に注意しつつ防除を行いましょう。

② 刈り取りは適期に行いましょう。

今年は成熟が遅れる可能性があります。収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色歩合 15%の時にいまいしょう（注：帯緑色歩合は主穂と思われる太い茎の穂を選び、不稔穂を除いて数えます。図を参照）。



完熟籾 帯緑色籾 帯緑色部分
図1 帯緑色籾の見分け方

③ イネ縞葉枯病の発生と防除対策について

今年度も、君津地域の各地でイネ縞葉枯病の症状と見られる株が確認されました。千葉県では、ヒメトビウンカの発生が増えており、対策を講じなければ被害が拡大する恐れがあります。イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによるウイルスの媒介によってのみ感染することから、ヒメトビウンカを防除することが対策のポイントです。



図2 ゆうれい症状



図3 穂の出すくみ症状

〔防除対策 1〕 収穫後の早期耕うん

収穫後の再生株（ひこばえ）はヒメトビウンカの生息地となるため、個体数を増加させます。また、すでに感染している株を吸汁することでウイルスを持っている個体の割合が高まります。10～11月には越冬地に移動するため、その前に耕うんしましょう。

〔防除対策 2〕 周辺雑草の除草

ほ場周辺の雑草（特にイネ科雑草）はヒメトビウンカの越冬地になります。ほ場周辺の除草を行い、越冬虫数を減らしましょう。

〔防除対策 3〕 ウンカ類に効果のある苗箱処理剤の使用（来年作における対策）

（※栽培期間中に発病が見られ、再生株でも発病株率が3%以上の場合）

収量に影響する発病時期は幼穂形成期頃（移植2ヶ月後頃）までです。それまで効果が続く、ウンカ類に登録のある苗箱処理剤（スターダム箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤等）を施用しましょう。